

## 『講習の部』

講習会小委員会では、毎年ダム工学だけでなく様々な分野の講師をお招きして講演を実施しています。本年も2名の講師を御招きし、橋梁の事例をもとに想定外に備える重要性について、新型サイホン洪水吐きの開発について、ダム技術および技術者としての参考とすべき最新の話題に対する講演をして頂きました。

## 『Preparing for the unexpected（想定外に備えよ）』

学校法人 城西大学 理事長 藤野 陽三様

## 『放流革命を秘めた新型サイホン洪水吐きの開発』

一般財団法人 ダム技術センター 技師長 川崎 秀明様

藤野 陽三講師からは、講師ご自身が携わられた橋梁に関し、設計では予測していなかった事象やそれらを解決するための道筋についてお話しいただきました。能登地震を含む今までの災害に対し「想定範囲外」という言葉が使われている現状について、過去の事例をもとに最終的に障害等が発生する前に「前兆」となる事象が発生し、見過ごされていたことを紹介いただきました。「前兆」をしっかりと捉え、今後発生する可能性のある事象を予測し、迅速に対策を施すことの重要性、またそれらは多くの人々の関わりを持って解決できることを説明いただきました。

川崎 秀明講師からは、放流革命となり得る2タイプの新型サイホン洪水吐きに関して説明をいただきました。新型サイホン洪水吐きは、既往の方式に対して大幅なコスト削減が可能なこと、自由度を持った施設配置が可能なこと、地球温暖化に伴う放流能力不足への対応といった世界的に大きな需要への対応が可能であることを、設計条件や水理模型実験の結果等を示していただきながら説明いただきました。本工法は施工時の仮設備の縮小も可能であり、工期短縮、働き方改革への適用性の高さから、今後のダム再開発の一つの手法として非常に有効な手法であることを講義いただきました。

今回の2名の講師のお話を通して、我々が従事している「ダム事業」を中心とした防災事業について、気候変動に関する課題の前兆を見逃すことなく対応すること、また常にコスト、汎用性の高い最新の技術開発を目指すことの重要性、また技術者の使命であることを改めて認識する良い機会となりました。このような機会をより多くの皆様に提供するためにも、産官学が参加するダム工学会の本会が、情報や意見交換の場として活用されるよう努めていくつもりです。



藤野講師による講義



川崎講師による講義